

令和8年度 学校園の保護者等の参画のための会議(会議要旨等)

○ 日時:令和8年9月 25 日(金) 18 時 30 分～19 時 30 分

○ 場所:天王寺区役所 講堂

○ 出席者:[委員]

天王寺中 PTA 会長、夕陽丘中 PTA 会長、高津中 PTA 会長、真田山小 PTA 副会長、

五条小 PTA 会長、聖和小 PTA 会長、大江小 PTA 会長、生魂小 PTA 会長、

天王寺小 PTA 会長、五条幼 PTA 会長、真田山幼 PTA 会長、味原幼 PTA 副会長、

大江幼 PTA 会長

[学校]石原校長(五条小)、神田校長(夕陽丘中)、蔭山園長(五条幼)

[教委]倉石係長(生涯学習担当)

[区役所]吉岡区教育担当課長、近藤区教育担当課長代理

○ 欠席者:[委員]

味原小、桃陽小、生魂幼

○ 傍聴者:2名(大江小 PTA)

○ 議題

・天王寺区の教育に関する取組等について

○ 意見等:

●阿倍野キューズモール周辺の噂(高津中／天王寺小)

意見:

阿倍野キューズモール周辺で、若年層へ危ない薬の受け渡しがあるとの情報がある。

区内学校園にも情報共有されているのか、対応はしているのか。校区が近く不安。

回答:

天王寺警察との連絡会で「噂話程度」として聞いたことはあるが、区内の児童生徒が関与した実際の問題事案は把握していない。現時点では身近な問題とまでは認識していないが、注意は必要。

●保育所から小学校への接続（夕陽丘中）

意見：

共働き家庭が多く、保育所から小学校へ入学するケースが多いと聞く。

保育所との連絡会も必要ではないか。

回答：

貴重な意見として連携のあり方について所管のこども青少年局とも情報共有する。

●不登校への捉え方・対応（天王寺中）

意見：

不登校の理由が「特にない」と子どもが話すケースがあり、家庭ではゲーム中心とのこと。学校園としてどう考えるのか。

回答：

不登校は非常に繊細で一律の答えを出しにくい。コロナ以降、ICTの整備により自宅学習という選択肢も広がった。個別最適な対応の整備について、意見を教育委員会へ共有する。

●図書環境の不足と電子図書（生魂小）

意見：

児童数増により図書室がなくなり、蔵書量が少ない、貸出中で読めない本があると聞く。

今後、電子図書導入が必要ではないか。

回答：

貴重な意見として教育委員会へ共有する。

●外国語サポーターの登録・稼働状況

質問：

登録者数と、実際に学校園で稼働している人数はどの程度か。

回答：

登録は約 30 名だが、稼働は約 5 名程度。各学校園は限られた予算内で利用するため頻繁な活用が難しく、評判等も踏まえ同じサポーターが複数の学校園で活動する傾向がある。

●教員負担増への区役所支援（聖和小）

意見：

教員負担が増えている。区役所で ICT 授業の支援などはできないか。

回答：

大きな予算を要するため区役所単位での対応は難しく、教育委員会が全市方針として対応する領域。

区役所としては予算確保の上、外国語サポーター派遣等の既存支援を継続していく。

●児童数増加と学校環境（五条小／真田山小）

五条小の意見：

児童数が多く運動会が 2 部制、保護者が競技を十分見学できない。

回答：

教育委員会が住民基本台帳を基に毎年集計するが、転入（海外・他市等）の予測が難しく環境整備に苦慮している。区としては学校選択制・指定校変更を抑止し児童数増を抑えるが、その影響で周辺校（生魂・桃陽・大江小等）の増加も起きうる。

真田山小の意見：

児童数増により教室・教員が不足しないか懸念。

回答：

普通教室数は足りている（教育委員会の整備判断も普通教室数が基準）。教員の配置は区役所では回答困難なため、意見として教育委員会へ共有する。

●園外保育の実施体制（真田山幼）

意見：

保護者協力が得にくくなり、園外保育が近隣公園中心に変更されると説明を受けた。

先生のみで従来どおり大きな公園（例：鶴見緑地）へ行ってほしい。

回答：

園の方針・位置づけによる（当該園は保護者との協力を前提とした活動として整理している可能性が高いと考えられる）。参考として、別園ではバスを借り、園外保育を実施している例がある。

●市立幼稚園の質の発信（味原幼／五条幼／大江幼）

意見（味原幼・大江幼）：

市立幼稚園教員の資質が高く、幼児期に良質な教育が提供されている。もっと市・区からアピールしてほしい（転園経験からも資質差を実感）。

意見（五条幼）：

区役所の支援が就学前によく分かった。今後も子どものための施策を進めてほしい。

回答：

いずれも貴重な意見として、所管のこども青少年局等へ共有していく。

○ アンケート結果等：（アンケート回収数18名）

●1. 「天王寺区の教育に関する取組」により、区内の学校、地域の実情に応じた教育が行われ、教育内容がより充実していると思いますか？

回答：ア そう思う 7名

イ ある程度そう思う 11名

ウ あまりそう思わない 0名

エ そう思わない 0名

●2. 天王寺区内の教育行政に対して、今後どのような取組を期待していますか？

・児童・生徒数増加への対応（施設・インフラ）

教室不足が生じており、学校施設整備が追いついていないとの指摘。

図書室等の転用により教室を確保している事例があり、学習環境への影響を懸念。

学校施設整備が不十分な状況で大規模マンション建設が進むことへの対策を求める声。

・公立幼稚園の維持・魅力発信

対話を重ね安心して過ごせる環境づくりの取組を評価。

公立幼稚園の魅力発信を強化し、園児数増加につながる施策を求める意見。

園児数に応じた配分に限らず、必要に応じた柔軟な予算運用（幼児費等）を望む声。

対策がなければ将来的な廃園につながる可能性を懸念。

・給食の充実

成長期の食事として、量や内容の充実を求める意見。

・登下校・安全面、学校運営

下校時刻が日々変動し保護者側の調整負担が大きいとの声。

支援が必要な子どももいる中で、下校支援体制への不安が示された。

・ICT・AI 教育等の推進

AI 時代を見据えた教育の推進を求める意見。

電子図書（電子書籍・電子図書館等）の導入要望。

・取組への評価と今後の進め方

区役所の取組がよく検討されている点を評価する意見。

児童・生徒数増加により子どもたちが不利益を受けないよう、施策の継続・強化を求める声。

行政には、子どもたちのために有効と判断した施策を躊躇せず着手してほしいとの意見。

・連携の必要性

幼・小・中の意見交換の機会を評価し、継続を希望。

人口流入等、区役所のみでは対応が難しい課題があるため、教育委員会等との連携による対策を求める意見。

以 上